

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは問九以外は黄色の解答用紙に書きなさい。問九の解答は国語一三の解答らんに書きなさい。

これはある日の、新幹線のなかでの話である。

春というにはやや肌寒い、雨降りの日のお昼近くに、私は東海道線沿いのある駅から、上りの「こだま」に乗った。

となりの席には、五十がらみの紳士がすわっていて、弁当をかついていた。自分の席は窓ぎわだったので、私は会釈して「失礼します」といつて前を通してもらい、カバンとコートをあみ棚に乗せて、腰をおろした。

それまでは、いつもと別に変わりがなかった。しかし、駅で買った新聞をひろげて読んでいるうちに、私はとなりの紳士のことが少しずつ気になり出した。

まず、第一に、この人はなぜかレイン・コートを着たままである。車内は適度に暖房してあるのだから、ぬいだほうが楽だろうと思われるのに、いっこうにその気配がない。第二に、この人は、ひざの上にカバンを大事そうにかかえたまま、弁当をつかっている。それも、いつまでもいつまでも、食べているのである。

コートを着たままなのは、風邪をひいているためかもしれないし、カバンをはなさないのは、よほどの重要書類がはいっているためかもしれない。だが、それにしても、カバンの口が開いたままになっているのは、どういうわけかわからない。そして、カバンの口が開いている上に汽車弁の折を置いて、いつまでもいつまでも食べているのは、なおさらわけがわからない。

ことわっておくけれど、私は、なにもジロジロとウの目【A】の目で、となりの紳士の様子をうかがっていたわけでは、決してないのである。新聞を読みながら、横目で二度ほどチラリと見ただけでも、大体これくらいのことばかり。それに、大体、隣人のほうが、私の存在など歯牙にもかけず、一心不乱に食べているのだ。身を固くして、正面を見つめ、ただひたすらに、少しずつ食べている。

この紳士は、一見したところ、地方の公務員か高校の教頭さんというような、実直そうな人が見うけられた。人品も尋常で、街で出会っても特に印象にのこることもなさそうである。しかしまた、その尋常でキョウヨウありげな紳士が、どうしてこれほど偏執的なものの食べかたをしなければならないのか、私には異様に感じられた。

もともと、食事というものは、もつとくつろいである。うまそうに食べるにしても、面倒くさそうに食べるにしても、もう少し身体をやわらかくして、あたりまえの食べかたをしつらよさそうなものなのに、コートは着たままだし、カバンはしっかりかかえたまま、かたき討ちをするような勢いで、弁当に立ち向かっている。私は、そのうちに新聞を読むのをやめてしまつて、陰鬱に曇った車窓の外を眺めようと努力したが、ボリボリ、ピチャピチャというような隣人の食事の音が耳について、どうにもやりきれなくなつてきた。

すると、そのうちに隣人は、ようやく食べ終えたらしく、弁当をかたづける気配がした。そろそろ熱海にさしかかろうというところである。私はホッとして、内心ヤレヤレと思い、少し眠ろうかという気持ちになつて、目をつぶりかけた。それまでは、となりが気になり出すのと同時に、汽車弁の鼻について、眠るに眠れない

状態だったからである。だが、そのとき、またバリバリという音がした。

うす目を開けると、隣人は、今度は瓦せんべいのようなものを食べている。開いたままになっているカバンの口から、ビニールの袋を半分ほどひっぱり出して、そのなかにはいつている瓦せんべいを片手でくつきながら、片手でその破片をつまみ出して、やはり一心不乱に食べているのである。

「やんぬるかな、と私は絶望的になった。【B】は道連れというけれど、これはまた不思議な人物と道連れになったものである。カバンのなかにはいつているのが、重要書類などではないことは、今やほぼ確実になった。はいつていたのは、瓦せんべいであつた。となりの紳士は、食後にこの瓦せんべいを食べるのを、よほど楽しみにしていたものとおぼしい。だからこそ隣人は、せんべいの袋のはいったカバンを、後生大事にしっかりとかがえこんでいたのだ。

とはいうものの、それほど瓦せんべいが好きなら、一枚ずつ袋からとり出して、堂々と食べたらしよさそうなのである。袋を半分カバンのなかにかくして、片手でくつきながら、その破片をほおばるという、ミミッチイやりかたは、なんといつても納得しがたい、といわなければならない。それともこの紳士は、家庭でよほど虐待でもされていて、好きなものを食べるのに他人目をはばからなければならぬような身の上なのだろうか。

小田原を過ぎても、新横浜を過ぎても、隣人はまだ瓦せんべいを食べていた。私はねむることをとうにあきらめてしまった。六郷の鉄橋をわたつても、品川を通過しても、まだバリバリ、モグモグという音はつづいていた。そして速度を落とした新幹線列車が、新橋を通りすぎるころ、ついにビニールの袋のなかには瓦せんべいの粉だけになった。列車が東京駅にすべりこむのと同時に、となりの紳士は袋に口をつけて、まるで散薬をのみこむように、その粉を上を向いてことごとくのみこんでしまった。

私は、1 ついにここまでやつたが、と、ほとほと感じ入った。それとともに、やつとこれで不思議な紳士から解放されるのだ、という安心感がわいて、大きくあくびをした。気がついてみると、紳士の姿はもう先を急ぐ旅客のなかにまぎれて、どこに行つたのか見当もつかなかった。

これはもちろん、奇妙な癖の話である。自分が悩まされた経験について書いたのだけれども、私にだって他人の眼から見れば、ずいぶんといういろいろ変な癖があるにちがいない。たとえば、私は、部屋を散らかしておくということができない。机にほこりが積もつていたり、窓が意味もなく曇つていたりするのを、長いことほつておくことができない。総じて雑然としたもの、うすぎたないもの、だらしないかっこうというものに、嫌悪を感じずにはいられない。

だから私は、タネがガラスのケースにはいつていたりしないすし屋が好きである。ホテル・オークラの地下にある鉄板焼き屋のクックさんは、料理を2 こしらえるそばからかたづけて行く3 手順が水際立っていて、いつ行つても感心させられるが、そういう人を見ていると、つくづくいいなあと思はれどしてしまふ。これはコックさんの心がけでもあるが、また性分にちがいない。職業上の必



要と性分とが助け合つて、ほとんど芸術的な整とんの手順ができあがつているのである。

この職業的なほうからいえば、すし屋や鉄板焼き屋がよくかたづいているのは、それが他人の前でやつてみせる要素のある商売で、いつもよそ行きのようなところがあるからにちがいない。逆に、あかじみたもの、だらしないもの、散らかりっぱなしのものというものは、どこかよそに会おうのを拒否しているようなところがあつて、たとえば「ヒッピー」などという風俗は、その拒否を全身であらわしているのだと考えられる。

散らかっているほうが気が楽だ、落ち着いていい、というのが自分の家のなかだけのことなら、まあそれはそれでもよい。しかし、日本ではオフィスまでがよそ行きに仕上つていなくて、うちうちで雑然としている場合が多く、いつもよそ行きにツルリとしているアメリカのオフィスとコウタイショウをなしている。⁴ これから

問一 本文中の太字のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ウの目〔A〕の目、〔B〕は道連れ とありますが、次の〔A〕〔B〕にもそれぞれ同じことばが入ります。あてはまることばをそれぞれひらがな二字で答えなさい。

- A . . . とんびが〔A〕をうむ / 能ある〔A〕はつめをかくす
B . . . かわいい子には〔B〕をさせよ / 〔B〕の恥はかき捨て

問三 a 一心不乱 b 後生大事 の意味としてもつともふさわしいものを、それぞれ次から選び記号で答えなさい。

- a
ア 一つの事に心をこめてはげむこと
イ 文章などをひといきに書き上げたりすること
ウ 多くの人々が心をついにして、結束していること
エ 心をひとつのことに集中させ、気が散らないこと
- b
ア 気が小さく、おくびょうでつねにびくびくしていること
イ 援助や協力がなく、ただひとりけんめいにがんばっていること
ウ その人にとってかけがえのないものとして大切に持っていること
エ 遠い将来のことまでとり入れて考え深く計画をめぐらしていること

問四 「私」は「紳士」をどのような人物と見ていますか。これを説明した次の文の(①)～(④)に、本文中の言葉をぬき出して書き入れて、文を完成させなさい。

この紳士は、まじめで(①) 人がらに見え、特にかわつた人には思えなかったが、車内は適度な温度が保たれているにもかかわらず(②) ままであったり、また(③) ままであったりして、少しづつ私は気になってきていた。最も気になったのは、この紳士が弁当を(④) ということである。それは私には異様に感じられた。

問五 ついにここまでやつたか、と、ほとほと感じ入つた とありますが、この時の「私」の気持ちとしてあてはまらないものを次から二つ選び記号で答えなさい。

- ア 他人目のある場所でせんべいの粉まで食べるという自分のやり方を徹底する食事の仕方に、むしろ感心してしまう気持ち。
イ せんべいの粉までもむだにせず飲みこむという行為は、ふつうの人にはないような食べ物へのこだわりだとおどろく気持ち。
ウ 自分の価値観とは全くちがう食事のしかたをする紳士の行為に、自分の見方にかたよりがあつたと教えてもらい感謝する気持ち。
エ せんべいが粉になつてもひたすら食べ物食べているように、食べ物大切にするとこうなるのだと、おどろき、圧倒される気持ち。
オ となりで食べ続けているだけでもいやなのに、袋の中に残つたせんべいの粉を飲むとはあまりにもみつともない行為であるとあきれる気持ち。

際化が進むにつれて、やがて日本のオフィスも次第にアメリカのオフィスに似てくるであろう。つまり国際化とは、おたがいによそ行きになりあうということだからである。

別の言葉でいえば、それはまた大人になることを強いられる、ということでもある。ヒッピーの例からもわかるように、⁵ よそに出会うのを拒否するというのは、いつまでも子供でいたいという甘えの表現でもあるからである。

〔注〕『夜の紅茶』江藤淳 (出題の都合上一部を書きかえました)

- 1 五十がらみ . . . 五十才ぐらいの。
2 人品 . . . その人から自然に感じられるふんいき。
3 やんぬるかな . . . 今さらどうすることもできないというなげきを表す言葉。
4 ヒッピー . . . 社会一般の考えに反発し、日常的でない行動をとつた若者たち。長髪ときばつな服装が特徴。

問六² こしらえるそばから とありますが、これを言いかえたものとしてもつともふさわしいものを次から選り記号で答えなさい。

ア こしらえるとすぐに イ こしらえるところちゅうで ウ こしらえる横で エ こしらえる後から

問七³ 手順が水際立ってて とありますが、この内容を言いかえている部分を本文中から十字でぬき出しなさい。

問八⁴ これから国際化が進むにつれて、やがて日本のオフィスも次第にアメリカのオフィスに似てくるであろう とありますが、これを説明した次の文の「①」「③」に本文中の適当な部分をぬき出して書き入れて、文を完成させなさい。ただし「②」は漢字二字で答えなさい。

国際化とは「①」「ことだから、日本のオフィスも「②」を意識するようになるので「③」のようなオフィスになること。

問九⁵ よそに出会ったのを拒否するというのは、いつまでも子供でいたいという甘えの表現でもある とありますがこれはどういうことですか。自分の言葉で答えなさい。答えは左の解答らん直接書きなさい。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えはすべて黄色の解答用紙に書きなさい。

多くの種子は、発芽するために光に当たることが必要である。だから、暗黒の中で、多くの植物種の種子は発芽しない。しかし、暗黒の中でも発芽する種子はある。身近なものでは、マメ科植物の種子である。ダイズなどモヤシとして食に供される植物は、暗黒の箱の中で発芽したものである。

モヤシは、色白で長身で、力がなさそうにヒョロヒョロと伸びる。だから、私たちは、背の高い細身の子を「モヤシっ子」と表現し、¹「モヤシ」をひ弱さを象徴する語として使う。しかし、「モヤシ」は、ほんとうに、ひ弱さの象徴にふさわしいのだろうか。

あるラジオ番組に出演した折り、モヤシの話をしたことがある。番組終了後、その話の一部を抜粋して、六〇秒間の、「見つめよう日本、身近な植物を知ろう」というキャンペーンのCMが制作された。そのCMは、その後一年間、ラジオで流され、「日本民間放送連盟賞統一キャンペーンスポーツ部門優秀」と「ACC全日本CMフェスティバル秀作賞」を受賞した。

その内容は、「モヤシは、暗黒の中で発芽した芽生えが、『早く光に会いたい』と、光を探し求めて、一生懸命に上へ上へと伸びている姿です。『太陽は上にある』と信じて、ただひたすら背丈を伸ばし、生きようとするたくましい姿なのです。だから、光が当たれば、上に伸びるのをやめます』というものだった。

太陽の光を見失った暗闇の中での植物の生き方が、モヤシの姿で

ある。真っ暗な箱の中で発芽したモヤシは、「なんとか光の当たっているところに出よう」と思い、太陽の光を探し求めて、すべてのエネルギーを注いで懸命に背丈を伸ばす。その²けなげな姿が、多くの人々の心を打ったのであろう。

モヤシは、八百屋さんやスーパーマーケットで売られ、ビタミン、食物繊維などが豊富で、手軽に調理できる³チオウホウな野菜である。モヤシのためなどなじみの深い、ごくありふれた⁴アンカな食材である。このモヤシの生き方が、多くの人々の心を打ったのだ。ということは、私たちが常日ごろ、身近な植物たちの生き方に、⁵いかに⁶関心、⁷感動であるかを意味している。

「モヤシが暗黒の箱の中で育った植物であることを知らない」という人や、「モヤシという植物の種類がある」と思っている人が、意外に多い。この人たちには、「モヤシという植物は、⁸4⁹」¹⁰と思われているようである。

「モヤシ」という植物種は存在しない。モヤシは、植物の種類の名ではない。植物の種子が、光をあたらえられず、十分な水をもらって育てられると、「モヤシ」になる。市販されているものは、ダイズなどのマメ類の種子に十分な水をあたえ、光をさえぎった暗黒の箱の中で発芽させ、しばらく成長させたものである。イネやムギの種子でも、十分な水をあたえ、光をさえぎった暗黒の箱の中で発芽させ、しばらく成長させた芽生えは、「モヤシ」と呼ばれる。

マメを土に埋めず、暗黒の箱の中で育てれば、モヤシができる。では、モヤシをつくるマメを土の中に植えた場合、土の中の暗黒でマメはどのように育つのだろうか。どんな芽が、でてくるだろうか。

地中に埋まって発芽した種子は、土の中の暗黒で光を受けていないはずである。それゆえ、それらの芽生えが地表面に芽を出す前に土中から掘り出すと、暗黒で育てたモヤシとよく似ている。茎の色は白く、上部はつり針のように曲がって、その先に小さな閉じた黄白色の葉がついている。

ところが、土中から掘り出された芽生えの茎は、太くてたくましい。「茎はヒヨロヒヨロに長く伸びる」という、暗黒の箱の中で示される特徴は消えている。考えてみれば、土の中を地表面に向かって伸びてくる茎が、モヤシのようにヒヨロヒヨロで弱いものだったら、土をおしのけて地表面に出てくることができない。だから、土中の暗黒では、太くたくましくなければならぬだろう。

モヤシのマメは、土の中の暗黒で発芽すれば、太くたくましい茎になるのだ。箱の中の暗黒と、土に埋もれている場合の暗黒を、植物は識別しているのだ。どのようにして植物たちは、識別するのだろうか。

「この原因は、土に含まれる栄養である」と考える人は多い。「肥料が不足すれば、光が当たっていても、植物はヒヨロヒヨロと貧弱な成長しかしない。でも、肥料をあたえれば、りっぱに成長する」とことが知られているからである。

「モヤシを真っ暗な箱の中で育てるときには、水しかあたえない。水しかあたえなければ、ヒヨロヒヨロの細いモヤシになる。しかし、モヤシのマメだって、栄養をあたえたら太くたくましい茎になるだろう。だから、土に栄養があれば、太い茎のモヤシが育つのだ」と言われれば、正しいような気がする。

ところが、この場合は、そうではない。伸びてくる茎が、土に「触れる」という刺激を感じる。この刺激が、茎を肥大させるのだ。植物が「触れる」という刺激に反応するというのは意外だろうが、「植物は、さわられると感じる」のだ。

植物は、「土と触れる」「土と接触する」という刺激を感じる。ほんとうに「植物が接触の刺激を感じるのか」と信じられない人は、植物をいつもなでまわしてみたらよい。背の低いむくりした植物になるだろう。

たとえば、大きなキクの花を一輪だけ咲かせるには、茎を太くせねばならない。そんなとき、茎を短く太くするための薬品がある。「a」、薬品を使わずにそうしたいときには、いつも地上部をなでまわしながら育てればよい。

「植物は、さわられると感じる」ことは、実験として、確かめることもできる。発芽したインゲンマメなどの芽生えの茎を、毎日、親指と人差し指ではさんで上下にこする。「b」、よくこすった茎ほど肥大して、背丈の低い植物になる。

「植物は、さわられると感じる」性質がわかる背景には、多くの研究者の経験があった。研究者が植物の成長を日を追って記録する場合、多くの植物を植えて、その中から、測定用に特定の植物を決める。「c」、それを多くの植物の代表として、観察する。その際、手で触れて、茎の長さや葉の数などを測定する。

ところが、日がたつにつれて、測定の対象に決めた植物の成長だけが抑制されるのだ。いつの調査でも、まわりの植物よりも測定

対象になった植物の成長だけが抑制されてしまう。「なぜだろう」と、長い間、多くの研究者が不思議に思っていた。その謎は、この性質の発見で解かれた。「植物は、さわられると感じ、背丈の低い植物になる」ことを考えると、⁵この現象はよく理解できる。

植物は、土の中にいるという「場所」を知る⁶すべを持っている。「触れる」という刺激を感じるのだ。植物たちの感覚は、私たちの想像をこえている。「植物って、私たちが思っている以上にすごい能力を持っているんだ」と思ってしまう。

そう思つて、モヤシをあらためてよくながめてみると、モヤシの奇妙な姿の意味が見えてくる。茎はヒヨロヒヨロで長く伸び、先端はつり針のように曲がり、その先に黄白色の小さな葉が閉じたままついている。でも、暗黒の中の芽生えの生き方を考えると、一見奇妙に見える特徴が、暗黒の中で、生きようとするたくましい姿なのだ。茎がよく伸びるのは、地表面になるべく早く出るためだろう。地表面に出れば、光が当たる。光が当たると、光合成をして、自分で栄養をつくり出すことができる。先端が地上へ出られなかったら、その芽生えは、やがて枯れてしまう。

種子中に貯蔵されている養分は、限られている。だから、それができるだけ効率的に茎を伸ばすのに使つて、早く光の当たる地上に出ようとしている。そのために、暗闇の中を懸命に茎を細く伸ばすのだ。茎が長く伸びるのは、生きようとする植物の必死な姿である。

茎の先端は、つり針のように曲がっている。これは、茎の部分を丸く曲げて力を強くし、その曲がつた部分で土を押しつけて上に伸びるためである。私たちが、満員の電車に、背中を丸めて後ろ向きに人を押しのけて、乗りこむ姿に似ているかも知れない。

もし、つり針のように曲がっていないかったら、芽が直接土を押しつけるが、上へ伸びなければならぬ。そうすれば、芽は傷つく。つり針のように曲がっているのは、芽生えが土を押しつけて伸びる際に、二枚の子葉のつけ根にある芽を守るためでもある。芽は、地上部に出て、葉をつくり、植物らしい形態をつくるために、もっとも大切な部分である。

長い茎の先端には、黄白色の小さな葉がたたみこまれている。植物が葉を広げるのは、光合成に必要な光を、できるだけ多く浴びるためである。光のない土の中では、葉を広げる必要もなく、広げようとしても、土がじゃまになって広げられない。光が当たれば、葉っぱは広がるようになっていく。

葉が黄白色なのは、クロロフィルという、葉を緑に見せる色素がつかれないからである。この色素は光合成に必要な光を吸収するために必要であり、暗黒の土の中では役立たない。暗黒の中で、必要のないものをつくっている余裕はない。暗黒の中にいる間は、黄白色のまま十分なのだ。

モヤシの姿は、一見、奇妙である。しかし、奇妙に見えるモヤシの姿に、無駄はない。「茎が長いのは、①」と信じて、②を求めてどんどん伸びるからである。土を③ように背中を丸めている。土の上に出て、太陽の光を浴びるまで、葉は広げないし、④もつくらない」と考えると、その奇妙な姿の特徴が、わかりやすく美しいものに見えてくる。

『ふしぎの植物学』田中修（出題の都合上一部を書きかえました）



問一 本文中のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 **なんとか** はどこにかかっていますか。次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

なんとか ア 光の イ 当たって ウ いる エ ところに オ 出よう

問三 ¹「モヤシ」をひ弱さを象徴する語として使う とありますが、「象徴」という言葉について聞きます。あなたは、何を、どのようなこと、との象徴と考えますか。自分で例を考えて、解答らんにあわせて答えなさい。

わたしは を の象徴だと考えます。なぜならば とされているからです。

問四 ² **けなげな姿** とはどのような姿ですか。もつともよくあてはまるものを次から選び記号で答えなさい。

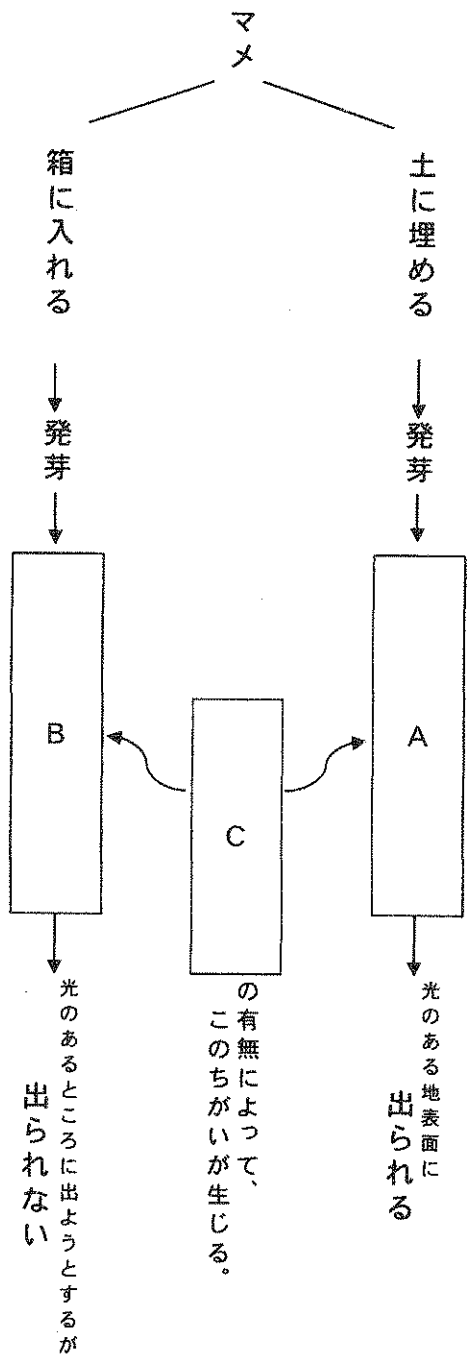
- ア 暗闇の中で光を見失ったモヤシが、光を求めてすべてのエネルギーを注いで上へ伸びていく一生懸命な姿。
- イ だれからも関心を向けられないありふれた植物でありながらどこか存在感のある太くてたくましい姿。
- ウ 箱の中の暗黒からのがれたいと願うモヤシが、太陽を信じてひたすら背丈を伸ばしていく純粋な姿。
- エ 早く光に会いたいときがし求めている芽生えが、先が当たれば伸びるのをやめるいさぎよい姿。

問五 ³ **いかに** **関心**、**感動**であるか とありますが、**■**には共通の漢字一字が入ります。その漢字を答えなさい。

問六 本文中の空らん「 4 」にもつともよくあてはまるものを次から選び記号で答えなさい。

- ア 暗闇の中でないと、成長できない
- イ 稲や麦の種子でもつくることができる
- ウ 十分な水を与えられた植物の根っこである
- エ 光の当たるところでも、あのような形態に育つ

問七 マメを土に埋めた場合と、暗黒の箱の中で育てた場合を次のようにまとめました。空らんA～Cにあてはまる言葉を、本文中の言葉を使ってそれぞれ十字以上十五字以内で答えなさい。



問八 空らん「 a 」 「 c 」にあてはまる言葉を次からそれぞれ選び記号で答えなさい。記号は一度しか使えません。

- ア だから イ すると ウ たとえば エ そして オ なぜなら

問九 ⁵ この現象 とはどのような現象ですか。本文中の言葉を使って、解答らんに合うように答えなさい。

問十 ⁶ **すべ** の言葉の意味を考えて、漢字二字で答えなさい。

問十一 本文中の空らん「 ① 」 「 ④ 」にはどのような言葉が入りますか。本文中の言葉を使って、あてはまる形にして答えなさい。

国語

二〇一五年度 東洋英和女学院中学部 入学審査解答用紙A

受験番号

写

氏名

一 キョウウヨウ

コウタイショウ

問一

問二 A

B

問三

a

b

問四

①

②

③

④

問五

問六

問七

問八

①

②

③

問九 答えは 国語一三 の解答らんに書きなさい。

二 供

問一

される

チヨウホウ

アンカ

問二

問三

わたしは

を

の象徴だと考えます。

なぜなら

とされているからです。

問四

問五

問六

問七 A

B

C

10

10

10

15

15

15

問八 a

b

c

問九

という現象。

問十

問十一

①

②

③

④